面五字目は「也」とも読める。表面二字目から四字目は判読不能である。三字目は、あるいは「莅」(うり)か。裏面の一部に墨の残存が認められるが判読不能。

（益田日吉）

(1)

兵庫・安倉南(あくらみなみ)遺跡

1 所在地　兵庫県宝塚市安倉南一丁目

2 調査期間　一九九五年（平7）一一月、一二月～一九九六年三月

3 発掘機関　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

4 調査担当者　山本高照・北原　治・中村　弘

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　平安時代末～室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は阪神淡路大震災復興に伴うもので、調査方法については遺跡が破壊される部分のみの調査となり、調査区は一〇本のトレンチ状となった。よって、遺跡の全体は把握できていない。

検出された遺構は平安時代末から室町時代まで存続した集落跡である。遺構の種類と数は、建物が三棟、

（大阪西北部）

柵が一列、井戸が四基、土坑が一五基、溝が一五条である。このうち木簡が出土したのは、井戸四からである。井戸四は直径一・二五m、深さ一・三八mを測る円形の素掘井戸である。

井戸四から出土した遺物は木簡二点のほか、完形の土師器皿、木錘三点、漆器皿二点、斎串三点、曲物片、板材などであり、時期は一四世紀前半頃とみられる。

他の遺構から出土した遺物には、瓦器（甕・椀・三足釜）、滑石製石鍋、温石、東播系須恵器（捏ね鉢・椀）、土師器（羽釜・皿）、同安窯系青磁（皿）、白磁（椀）、黒色土器などがある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈蘇民将来之子孫家門也」　152×34×5　032

(2)　「〈蘇民□□□」　(120)×34×4　039

(2)は表面が腐蝕しており、赤外線テレビカメラ装置によっても全文は判読不能であった。

（中村　弘）

(1)

兵庫・明石城跡坤櫓（あかしじょうひつじさるやぐら）

1　所在地　兵庫県明石市明石公園

2　調査期間　一九九六年（平8）八月～九月

3　発掘機関　兵庫県教育委員会

4　調査担当者　渡辺　昇・大西貴夫

5　遺跡の種類　城跡

6　遺跡の年代　江戸時代末～明治時代初め

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

明石城は元和四年（一六一八）に小笠原忠政（忠真）によって築城され、一八代二四九年間明石藩主の居城となった城である。本丸の南西部に位置する坤櫓もその際に築かれたと伝えられている。

（明石・須磨）

阪神淡路大震災によって明石城跡の石垣も大きな被害を受け、石垣補修工事がほぼ城内全域で行なわれることとなった。本丸石垣も同様で、櫓を曳屋工事によ